



バリアブルデータ印刷 (FS400 以降)

© 2020 Electronics For Imaging, Inc. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2020年10月21日

目次

バリアブルデータ印刷の概要 (FS400 以降)	5
バリアブルデータ印刷ジョブの一般的要素	5
Fiery server での VDP	6
Fiery server と互換性のある VDP 言語	6
Fiery server の VDP 機能	7
FreeForm Plus を使用したバリアブル文書の印刷	9
Fiery FreeForm Create を使用して FreeForm Plus ジョブを印刷する	9
Command WorkStation を使って Fiery FreeForm Plus ファイルを印刷する	9
Command WorkStation ドラッグアンドドロップ機能で Fiery FreeForm Plus ファイルを印刷する	10
従来型 FreeForm を使用したバリアブル書類の印刷	12
可能なマスター文書構造	12
従来の FreeForm ジョブを印刷する際のガイドライン	13
従来型 FreeForm で使用するマスター書類を作成する	13
従来型 FreeForm で使用するバリアブル書類を作成する	14
FreeForm マスターとバリアブル書類の組み合わせるには	15
Fiery Driver でマスター書類をプレビューする	16
最適化 FreeForm を使用してマスターファイルとバリアブルファイルをマップする	16
他のバリアブルデータファイルの印刷	18
Command WorkStation を使用してバリアブルデータファイルを印刷する	18
Command WorkStation を使用してドラッグアンドドロップでバリアブルデータファイルを印刷する	19
レコードの長さの定義を使用して、PS、PDF または Quick Doc Merge ファイルをバリアブルデータ印刷ファイルとして印刷する	19
リモートリソースを使用してバリアブルデータジョブを印刷する	21

バリアブルデータ印刷の概要 (FS400 以降)

バリアブルデータ印刷 (VDP) は、全書類に共通に用いられる一連の固定の要素と、出力ごとに異なる一連のバリアブル要素を組み合わせます。

バリアブルデータ印刷は、デジタルプリンターに印刷物のデータがあるデータベースをリンクするデジタル印刷技術を使用します。バリアブルデータファイルには、データベースからコンテンツを指定して選択したり、書類内のコンテンツの配置をデザインするためのルールが含まれています。

パンフレットに顧客名を入れたりデータベースから取得したその他の個人情報を使用するなど、パーソナライズされた印刷物を作成できます。この場合、すべてのパンフレットに共通の背景、イラスト、テキストブロックなどが固定要素で、お客様の名前、住所、バーコード、その他のお客様固有の画像やテキストはバリアブル要素です。

パーソナライズされたアドレスブロック付きの差し込み印刷は、簡単な VDP の形式です。しかし、画像、グラフ、テキスト、およびその他の要素を組み込むことで、さらに特定の顧客に特化した印刷物を作成できます。

バリアブルデータ印刷ジョブの一般的要素

通常、バリアブルデータ印刷ジョブには、コンテンツ、データベース、ビジネスルール、レイアウト、VDP アプリケーションおよびプリンターが含まれます。

以下の表は主な要素を説明しています。

バリアブルデータのコンポーネント	説明
コンテンツ	書類のさまざまな場所に配置されたテキスト、グラフィックまたは写真が含まれています。固定コンテンツ、またはバリアブルコンテンツは、Adobe InDesign や Microsoft Word など、さまざまなアプリケーションを使用して作成することができます。
データベース	バリアブルデータ書類レコードで使用するための固定コンテンツ要素とバリアブルコンテンツ要素の両方が含まれています。
ビジネスルール	使用するバリアブルコンテンツや書類内での配置場所を指定します。
レイアウト	テキスト、イメージ、その他のページ上のオブジェクトなど、固定デザイン要素とバリアブルデザイン要素の両方の配置が含まれています。
VDP アプリケーション	固定要素とバリアブル情報を組み合わせて印刷出力用データを作成します。
プリンター	デジタルファイルを印刷された書類に変換します。VDP をサポートしているすべてのデジタルプリンターです。

Fiery server での VDP

Fiery server では、さまざまな VDP 言語とサードパーティの機能をサポートする組み込み機能を使用して、バリエブルデータワークフローをサポートしています。

Fiery server と互換性のある VDP 言語

Fiery server でバリエブルデータ印刷を使用するには、互換性のある VDP 言語が必要です。

以下の VDP 言語は Fiery server に対応しています。

- Fiery FreeForm Plus は、Fiery FreeForm Create を使用して生成されたファイル形式です。Fiery FreeForm Create は、ジョブに必要なすべてのリソース（マスターとバリエブルコンテンツの両方）を、Fiery server に送信することができる 1 つの FreeForm Plus (FFP) ファイルパッケージに結合します。

FreeForm Create で、バリエブルデータワークフローまたはファイルマージワークフローのいずれかを使用して、バリエブルテキスト、画像またはバーコードをマスターコンテンツと結合することができます。FreeForm Create から Fiery server に直接 FFP ジョブを印刷したり、Fiery Hot Folders や Command WorkStation を使って Fiery server に FFP ジョブを送信したりすることができます。
- 従来型 Fiery FreeForm は、固定された再利用可能なコンテンツを 1 度だけ処理するため、より高速で効率的な印刷が可能になります。

プリンタードライバーを使用して、FreeForm マスターおよびバリエブルファイルを作成できます。また、Command WorkStation から、FreeForm マスターファイルまたはバリエブルデータファイルとして PDF および PostScript ファイルを割り当てることができます。
- Personalized Print Markup Language (PPML) は、業界標準の形式です。プリンターにテキスト要素やグラフィック要素を保存し、必要なときに再利用してバリエブルデータ印刷を高速で実行できるようにします。

Fiery server は、圧縮および非圧縮の PPML ジョブをサポートしています。PPML 形式の書類を印刷するには、PPML 形式と互換性のあるサードパーティソフトウェアアプリケーションを使用します。Fiery server に PPML ジョブを送信したり、Command WorkStation や Fiery Hot Folders を使用して PPML ファイルをダウンロードすることができます。

Fiery server は、PPML アプリケーションで設定した IMPOSITION または PRINT_LAYOUT コマンドで作成した PPML ファイルをサポートしていません。これらのオプションは、Fiery Impose を使用して Command WorkStation から設定します。
- Creo Variable Print Specification (VPS) は、Creo 社による PostScript 言語の拡張版です。Creo VPS ファイルは、ヘッダーセクションとブックレットセクションで構成されています。ヘッダーセクションには、ジョブ全体のグローバルオブジェクトが含まれます。ブックレットセクションには、個人向け書類のコピーが含まれます。ページ要素は、Creo VPS フォーマットで定義された再利用可能なオブジェクトです。すべてのページ要素を Creo VPS ファイルに含める必要があります。

Command WorkStation や Fiery Hot Folders を使用して Fiery server に VPS ファイルをインポートすることができます。
- Xerox Variable Data Intelligent PostScript Printware (VIPP) は、Xerox 社によって開発された独自のページ記述言語です。Fiery server で Xerox VIPP 形式の書類を印刷するには、まず Xerox VIPP 形式と互換性のあるサードパーティソフトウェアアプリケーションをインストールする必要があります。Command WorkStation または Fiery Hot Folders を使用して Fiery server に Xerox VIPP ファイルをインポートします。

- Portable Document Format/Variable Transitional (PDF/VT) は、PDF テクノロジーベースの Adobe のフォーマットです。PDF/VT は、バリアブルデータおよびトランザクション印刷に対して安定したドキュメント交換を可能にします。トランザクション書類には、請求書、ステートメント、マーケティング情報と請求情報を統合した書類などがあります。PDF/VT には、オブジェクトベースの技術が使用されています。

VDP アプリケーションは PDF/VT ファイルを生成します。Command WorkStation や Fiery Hot Folders を使用して Fiery server に PDF/VT ファイルをインポートすることができます。PDF/VT ファイルは PostScript または Adobe PDF Print Engine で処理できます。

- ジョブのプロパティでレコードの長さの定義がオンに設定されている場合の PS、PDF、Quick Doc Merge ファイルは、バリアブルデータジョブと同様に処理できます。このオプションを選択すると、バリアブルデータ処理に使用する固定のサブセットレコードの長さを定義できます。

レコードの長さの定義は、非 VDP PostScript、PDF、Quick Doc Merge ジョブで使用できます。

メモ：すべての Fiery servers がすべての VDP 言語をサポートしているわけではありません。Fiery server サポート書類を参照してください。

Fiery server の VDP 機能

Fiery Impose、用紙種類の混合などの Fiery server の機能を使用すると、カスタムレイアウトを作成して、バリアブルデータジョブにさまざまな用紙や仕上げオプションを適用できます。

また、バリアブルデータ印刷リソースを使用して、1 部のバリアブルデータジョブの再利用可能オブジェクトを管理できます。

Fiery Impose を使用した VDP の面付け

Fiery server は多様な VDP 言語に対して、Fiery Impose を使用したバリアブルデータ印刷ジョブの面付けに対応しています。

- FreeForm Plus
- 従来型 FreeForm
- PPML
- Creo VPS
- Xerox VIPP
- PDF/VT
- レコードの長さの定義が選択されている場合の PS、PDF、Quick Doc Merge ファイル

バリアブルデータジョブの面付けを行うとき、単一レコード面付けスキームか複数レコード面付けスキームを選択できます。

Hot Folders を使用した VDP の面付け

バリアブルデータジョブを Fiery server に送信する際に、Fiery Hot Folders を使用して面付けすることもできます。Fiery Hot Folders アプリケーションで、特定の Hot Folder に適したバリアブルデータ印刷の面付けテンプレートを設定する必要があります。

用紙種類の混合をバリアブルデータ印刷に適用

用紙種類の混合設定は、すべてのバリアブルデータ印刷ジョブに適用することができます。用紙種類の混合設定を使用すると、Fiery server は各バリアブルデータレコードを個別のジョブとして認識します。バリアブルデー

タ印刷ジョブが面付けされていない場合、Fiery server では用紙種類の混合設定がすべてのバリアブルデータジョブに適用されます。

バリアブルデータ印刷リソース

一部のバリアブルデータジョブで使用される画像などの再利用可能なオブジェクトは、Fiery server に格納し、グループとしてキャッシュすることができます。

Command WorkStation から使用できるバリアブルデータ印刷リソース機能は、再利用可能オブジェクトをリストするため、オブジェクトを削除したり今後のバリアブルデータジョブ用に保持することもできます。バリアブルデータ印刷リソースでは、次のバリアブルデータ印刷言語に対応しています。

- FreeForm Plus
- 従来型 FreeForm
- PPML
- Creo VPS
- Xerox VIPP
- PDF/VT

FreeForm Plus を使用したバリアブル文書の印刷

Fiery FreeForm Create アプリケーションでジョブの固定要素とバリアブル要素を設計し、FreeForm Plus (FFP) ジョブを FreeForm Create から Fiery server に直接印刷することができます。Fiery Hot Folders や Command WorkStation を使って Fiery server に FFP ファイルをインポートすることもできます。

Fiery FreeForm Create の詳細については、[FreeForm Create のヘルプ](#)を参照してください。

Fiery FreeForm Create を使用して FreeForm Plus ジョブを印刷する

デザインを Fiery server に送信して印刷することができます。

以下の点に留意してください。

- Fiery server に初めてデザインを送信する場合は、その Fiery server のサーバーアドレス、ユーザー名、パスワードが必要です。Fiery server のシステム管理者ユーザー名は Admin です。また、システム管理者パスワードを入力する必要があります。
 - デザインの編集が完了している必要があります。
- 1 Fiery FreeForm Create で Fiery サーバーに送信をクリックします。
 - 2 既存の Fiery server を選択するか、新規をクリックして Fiery server を追加します。
 - 3 Fiery server の各フィールドにサーバー IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力します。
 - 4 ログインをクリックします。
 - 5 オプション: 設定リストから適切な設定を選択します。
 - 6 処理後待機をクリックするか、リストを使用して Fiery server の別のジョブアクションを選択します。次のジョブアクションから選択します。
 - 処理後待機: ファイルを処理して待機リストに入れます。
 - 待機: ファイルを待機リストに入れます。
 - 印刷: ファイルを印刷します。
 - 印刷後待機: ファイルを印刷して待機リストに入れます。

Command WorkStation を使って Fiery FreeForm Plus ファイルを印刷する

Command WorkStation を使って FreeForm Plus (FFP) ファイルを Fiery server に印刷することができます。

1 コンピューターから FFP ファイルを直接インポートするには、次のいずれかの操作を行います。

- ファイルジョブのインポート > をクリックします。
- ジョブセンターのインポートツールバーアイコンをクリックします。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。

2 アップロードする FFP ファイルを選択します。

3 FFP ファイルを印刷するための設定を適用します。

- デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery server のデフォルト設定が使用されます。
- サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery server で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
- 仮想プリンターを使用を選択し、Fiery server で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、Fiery server にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

4 次のいずれかのジョブアクションを選択します。

- 処理後待機 (デフォルト) : ファイルを処理して待機リストに入れます。
- 印刷 : ファイルを印刷します。
- 印刷後待機 : ファイルを印刷して待機リストに入れます。

接続された Fiery server の機能に応じて、他のジョブアクションが表示される場合があります。

FFP ファイルは、選択したジョブアクションを使用して印刷されます。

Command WorkStation ドラッグアンドドロップ機能で Fiery FreeForm Plus ファイルを印刷する

Command WorkStation を使って、ドラッグアンドドロップで FreeForm Plus (FFP) ファイルを Fiery server に印刷することができます。

1 Fiery server で特定のジョブアクションから印刷するには、コンピューターから印刷中キュー、処理中キューまたは待機リストに FFP ファイルをドラッグアンドドロップします。

FFP ファイルは、Fiery server にドロップした場所に対応するジョブアクションで印刷されます。

メモ : 上記の場所へバリアブルデータファイルをドラッグアンドドロップしても、ファイルのインポートダイアログボックスは表示されません。

- 2 ジョブアクションを選択せずに **Fiery server** に印刷するには、サーバーリストの接続された **Fiery server** に FFP ファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。

- 3 バリアブルデータファイルを印刷するための設定を適用します。
 - デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、**Fiery server** のデフォルト設定が使用されます。
 - サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは **Fiery server** で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
 - 仮想プリンターを使用を選択し、**Fiery server** で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、**Fiery server** にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

- 4 次のいずれかのジョブアクションを選択します。
 - 処理後待機 (デフォルト) : ファイルを処理して待機リストに入れます。
 - 印刷 : ファイルを印刷します。
 - 印刷後待機 : ファイルを印刷して待機リストに入れます。

接続された **Fiery server** の機能に応じて、他のジョブアクションが表示される場合があります。

FFP ファイルは、選択したジョブアクションを使用して印刷されます。

従来型 FreeForm を使用したバリアブル書類の印刷

従来型 FreeForm テクノロジーを使用すると、プリントオプションを使用してマスター書類を定義し、Fiery server へ送信されたバリアブルデータジョブにそのマスター書類を適用できます。

従来型 FreeForm を使用してバリアブルデータジョブを印刷する場合は、まずマスター書類を作成し、次にバリアブル書類を作成して、その後、従来型 FreeForm で2つのファイルを組み合わせます。

従来型 FreeFormVDP はジョブのマスター要素データを Fiery server に送信し、バリアブル要素データとは別にラスタライズします。マスター要素データはラスタ形式で FreeForm マスターとして Fiery server に格納され、必要に応じて複数のバリアブルデータセットと組み合わせて印刷できます。FreeForm マスタージョブは Fiery server で再処理および保存されるため、処理する必要があるのはバリアブル要素データのみとなり、ジョブの処理時間が削減されます。

FreeForm マスターは、毎回異なるデータと組み合わせるすべての固定要素データに使用できます。たとえば、レターヘッドのテンプレートを FreeForm マスターとして保存し、異なる内容（バリアブル要素データ）のレターに使用できます。

従来型 FreeForm では、Adobe InDesign や Microsoft Word などの多くのアプリケーションを使用して、マスター書類やバリアブル書類を作成できます。マスター書類には、レコード間で固定されている再利用可能なコンテンツが含まれている必要があります。バリアブル書類には、名前や住所など、レコードごとの固有のコンテンツすべてが含まれている必要があります。バリアブル書類ページを作成する場合には、差し込み印刷機能付きワードプロセッサや、スクリプト機能付きページレイアウトアプリケーション、データベースアプリケーションを使用できます。

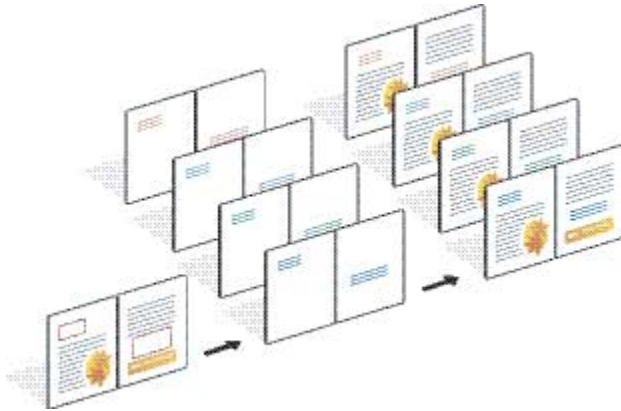
マスター作成およびマスター使用印刷オプションを使用して従来型 FreeForm 機能を管理します。ジョブを送信するときに、プリンタードライバーでこれらのオプションを設定するか、Command WorkStation からのジョブオーバーライドを使って設定するようにオペレーターに指示します。処理されたマスター書類は、Command WorkStation のデバイスセンターの VDP リソースに表示されます。Command WorkStation では、Fiery server に格納されているすべての FreeForm マスターを監視および管理することもできます。

可能なマスター文書構造

複数ページのマスター書類も作成できます。バリアブル書類の印刷時に複数ページで構成される FreeForm マスターを指定する場合、マスターページはバリアブルページと周期的に組み合わせられます。

たとえば、マスターページが2ページで構成されている場合、バリアブル書類の1ページ目と2ページ目は、マスター書類の1ページ目と2ページ目とに組み合わせられます。バリアブル書類の3ページ目と4ページ目は、マスター書類の1ページ目と2ページ目とに組み合わせられます。この組み合わせがバリアブル書類の終わりで続きます。

図 1:2 ページのマスターを使用した複合書類



従来の FreeForm ジョブを印刷する際のガイドライン

ここでは、従来の FreeForm ジョブを適切に印刷するためのガイドラインを提供します。

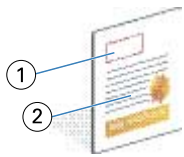
- FreeForm マスター番号の割り当てに関しては、システム管理者またはオペレーターにお問い合わせください。
- マスター使用オプションとマスター作成オプションを同じファイルに指定することはできません。
- 1 ページの FreeForm マスターは片面印刷にしか使用できません。1 ページの FreeForm マスターを両面印刷に適用することはできません。
- 直接接続にはバリアブルデータ印刷ジョブを送信しないでください。直接接続に送信されたバリアブルデータ印刷ジョブは処理されません。
- ジョブ注釈メモや指示欄を使用して、オペレーターにジョブ情報を伝えます。
- ジョブには、内容の分かりやすい固有の名前を付けてください。ただし、次の制限が適用されます。
 - マスター作成およびマスター使用オプションでは、\|*? “”:<などの記号や特殊制御文字を使用することはできません。
- 従来型 FreeForm の使用時は次の制限に注意してください。
 - マスターファイルとバリアブルファイルの用紙サイズと印刷の向きは同じである必要があります。用紙種類の混合を適用している場合でも、各ジョブに適用できるのは1つの用紙サイズのみです。
 - バリアブルデータファイルの仕上げオプションおよび用紙トレイ選択の設定がマスタージョブ設定と異なっていた場合には、バリアブルデータファイルの設定が優先されます。
 - マスター作成およびマスター使用設定を使用できるのは、従来型 FreeForm に限られています。
- 面付けジョブ (.dbp ファイル) を FreeForm ジョブのマスターとして設定することはできません。
- 従来型 FreeForm には、バリアブルデータファイルだけを面付けする必要があります。

従来型 FreeForm で使用するマスター書類を作成する

従来型 FreeForm を使用する前に、マスター書類およびバリアブル書類を作成します。これらは各要素のスペースを持つ複合書類のレイアウトとなります。

- 1 任意のアプリケーションでマスター書類のレイアウトを設定します。
- 2 その際には、ページ（複数可）上にマスター要素（変更されないテキストやグラフィック）を配置し、バリアブル要素用のスペースを確保します。

図 2: マスター書類



- 1 バリアブル要素用スペース
- 2 変更されないマスター要素

- 3 ファイルを保存します。

従来型 FreeForm で使用するバリアブル書類を作成する

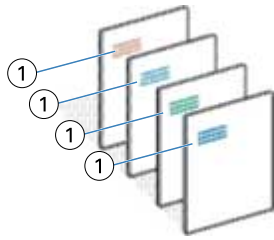
バリアブル文書を作成するには、差し込み印刷機能付き DTP アプリケーション、データベースアプリケーションまたはスクリプト機能付きページレイアウトアプリケーションが必要です。

アプリケーションによりデータベースまたはリストから情報が取得され、マスター情報を受け入れる既存の文書に差し込まれます。この機能のコントロールはアプリケーションによって異なります。

- 1 サポートされているアプリケーションで、バリアブル書類を作成して、マスター書類のレイアウトに合うように体裁を整えます。
- 2 書類の適切な場所にバリアブル情報を追加します。

メモ：バリアブル書類とマスターページ書類は同じページ数である必要があります。たとえば、マスター書類のレコードの長さが 4 ページであれば、すべてのバリアブル書類のレコードの長さを 4 ページにする必要があります。必要であれば、最適化 FreeForm を使用して、バリアブル書類の最後のレコードに空白ページを追加することもできます。

図 3: バリアブル書類



1 バリアブル要素

3 ファイルを保存します。

FreeForm マスターとバリアブル書類の組み合わせるには

Fiery server は、バリアブル書類のラスターデータと処理済みの FreeForm マスターデータとを組み合わせ、新しいラスターファイルを作成します。

バリアブル書類を Fiery server に印刷するときは、マスター使用印刷オプションでマスター書類から作成した FreeForm マスターを指定します。FreeForm マスター番号は、マスター書類の送信時に設定するか、オペレーターから割り当てられたものを使用します。

1 作成したマスター書類を Fiery server に印刷します。(マスターを作成印刷オプションを FreeForm マスター番号の 1 つに設定します。)

メモ: また、マスター作成印刷オプションをなしに設定し、Command WorkStation からオーバーライドを使用してこのジョブから FreeForm マスターを作成することもできます。

2 バリアブルデータとマージする前に FreeForm マスターを印刷するには、ファイルを Fiery server に送信した後にマスター印刷機能を有効にします。

3 適切な FreeForm マスター番号をマスター使用オプションに設定し、作成したバリアブル書類を Fiery server に印刷します。

4 以下のいずれかを行ってジョブをプレビューすることもできます。

- マスターページを確認するには、Fiery Driver のマスタープレビューをクリックし、低解像度のマスターページのイメージを生成します。
- 印刷前にジョブをプレビューから確認するには、ジョブを処理後待機します。

図 4: 組み合わせられた書類



Fiery Driver でマスター書類をプレビューする

マスター書類を作成した後、Fiery Driver でプレビューできます。従来型 FreeForm を使用して印刷する場合はマスター書類を選択しやすくなります。

マスター作成およびマスター使用オプションに FreeForm マスター番号と名前が表示されます。

- 1 アプリケーションでプリント（印刷）を選択します。
- 2 プリンターとして Fiery server を選択しプロパティをクリックします。
- 3 Fiery 印刷タブをクリックします。
- 4 バリアブルデータ印刷アイコンをクリックします。
- 5 アップデートをクリックして Fiery server から FreeForm マスター名のリストを受信します。
メモ：FreeForm マスター名のリストを受信するには、双方向通信が有効になっている必要があります。
- 6 マスター使用オプションからプレビュー表示するマスター書類を選択し、マスタープレビューをクリックします。

最適化 FreeForm を使用してマスターファイルとバリアブルファイルをマップする

最適化 FreeForm では、ユーザーが定義した一定の順序でマスターファイルとバリアブルファイルをマップできるため、期待通りの結合出力を得るためにブランクページを追加する必要はありません。（従来型 FreeForm のページ順序は常に決まっています。）

マスターファイルの任意のページをバリアブル書類の任意のページにマップできます。マスターには、最終的な書類よりも多くのページを含めることもできます。また、バリアブル書類のレコードの長さは、マスターページの合計数と一致させる必要はありません。

- 1 従来型 FreeForm ジョブを選択し、アクション>プロパティを選択します。
- 2 ジョブのプロパティで VDP タブをクリックします。
- 3 マスター使用から、FreeForm マスターを選択します。
メモ：FreeForm マスターを選択するときは、ジョブに使用するマスターページのページ数を事前に確認しておきます。
- 4 最適化 FreeForm を使用を選択し、マッピング定義をクリックします。
- 5 レコードごとのバリアブルページ数には、レコードごとに使用されるバリアブルファイルのページ数を入力します。
- 6 マスターページをプレビューするには、マスタープレビューをクリックします。
- 7 レコードごとの仕上げ合計ページ数には、マスターファイルのレコード長のページ数を入力し、続行をクリックします。
- 8 バリアブルページ列の各ページをマスターページ列のマスターページにマップします。

- 9 バリアブルページに割り当てられていないマスターページについては、上下の矢印をクリックして、バリアブルページを必要なマスターページに関連付けることができます。

他のバリアブルデータファイルの印刷

サードパーティ VDP アプリケーションを使用してジョブの固定およびバリアブル要素をデザインし、互換性のある形式を使用してアプリケーションから Fiery server にジョブを印刷できます。

Fiery server は、多数の VDP 言語と互換性があります。[Fiery server と互換性のある VDP 言語](#) (6 ページ) を参照してください。

Command WorkStation を使用してバリアブルデータファイルを印刷する

Command WorkStation を使って、バリアブルデータファイルを Fiery server に印刷することができます。

すべての Fiery サーバーがすべての VDP 言語を使用できるわけではありません。Fiery サーバー取扱説明書を参照してください。

- 1 コンピューターからファイルを直接インポートするには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルジョブのインポート > をクリックします。
 - ジョブセンターのインポートツールバーアイコンをクリックします。ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。
- 2 アップロードするバリアブルデータファイルを選択します。
- 3 バリアブルデータファイルを印刷するための設定を適用します。
 - デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery server のデフォルト設定が使用されます。
 - サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery server で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
 - 仮想プリンターを使用を選択し、Fiery server で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、Fiery server にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

- 4 次のいずれかのジョブアクションを選択します。
 - 処理後待機 (デフォルト) : ファイルを処理して待機リストに入れます。
 - 印刷 : ファイルを印刷します。
 - 印刷後待機 : ファイルを印刷して待機リストに入れます。

接続された Fiery server の機能に応じて、他のジョブアクションが表示される場合があります。

バリアブルデータファイルは、選択したジョブアクションを使用して印刷されます。

Command WorkStation を使用してドラッグアンドドロップでバリアブルデータファイルを印刷する

Command WorkStation を使って、ドラッグアンドドロップでバリアブルデータファイルを Fiery server に印刷することができます。

- 1 Fiery server で特定のジョブアクションから印刷するには、コンピューターから印刷中キュー、処理中キューまたは待機リストにバリアブルデータファイルをドラッグアンドドロップします。

バリアブルデータファイルは、Fiery server にドロップした場所に対応するジョブアクションで印刷されます。

メモ：上記の場所へバリアブルデータファイルをドラッグアンドドロップしても、ファイルのインポートダイアログボックスは表示されません。

- 2 ジョブアクションを選択せずに Fiery server に印刷するには、サーバーリストの接続された Fiery server にバリアブルデータファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。

- 3 バリアブルデータファイルを印刷するための設定を適用します。

- デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery server のデフォルト設定が使用されます。
- サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery server で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
- 仮想プリンターを使用を選択し、Fiery server で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、Fiery server にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

- 4 次のいずれかのジョブアクションを選択します。

- 処理後待機 (デフォルト) : ファイルを処理して待機リストに入れます。
- 印刷 : ファイルを印刷します。
- 印刷後待機 : ファイルを印刷して待機リストに入れます。

接続された Fiery server の機能に応じて、他のジョブアクションが表示される場合があります。

バリアブルデータファイルは、選択したジョブアクションを使用して印刷されます。

レコードの長さの定義を使用して、PS、PDF または Quick Doc Merge ファイルをバリアブルデータ印刷ファイルとして印刷する

レコードの長さの定義が選択されると、サブセットの長さを定義し、レコードベースの仕上げ用のファイルを有効にすることができます。Command WorkStation で、レコード数およびレコードごとのページ数を表示できます。

メモ：レコードの長さの定義は、PS、PDF および Quick Doc Merge ジョブで使用できます。

- 1 任意の PS、PDF または Quick Doc Merge ファイルを Command WorkStation にインポートし、ジョブを選択し、アクション>プロパティをクリックします。
- 2 VDP タブをクリックし、レコードの長さの定義を選択します。
- 3 ページ/レコードから、固定されたレコードの長さ（ページ数）を指定して、すべての仕上げをジョブ全体ではなくレコードに適用します。

リモートリソースを使用してバリアブルデータジョブを印刷する

イメージやフォントなど、リモートのバリアブルデータリソースを保存する共有場所を指定できます。Fiery server は指定された場所にあるすべての必要なリソースにアクセスし、自動的にそれらのリソースを取得します。

パスの場所が分かっている場合は、ジョブごとに外部リソースを検索することもできます。ジョブを印刷する前に、ファイル検索パスを設定します。ファイル検索パスには、次のバリアブルデータ印刷言語を使用できます。

- Creo VPS
- VIPP
- PPML
- PDF/VT

Fiery server へのリモートリソースを検索するには、Configure でリモートネットワークコンピュータのファイル検索パスを入力する必要があります。『設定のヘルプ』を参照してください。

メモ: Fiery server でジョブのリモートオブジェクトが見つからなかった場合、ジョブは処理されません。ファイル検索パスは正確に入力してください。

- 1 VDP 言語をサポートするサードパーティーアプリケーションを使用して、Creo VPS、VIPP、PPML または PDF/VT ジョブを Fiery server に送信します。
- 2 Command WorkStation で、Creo VPS、VIPP、PPML、PDF/VT ジョブのいずれかを選択し、アクション > ジョブのプロパティを選択します。
- 3 VDP タブをクリックし、ファイル検索パスに場所を入力します。
- 4 Creo VPS、VIPP、PPML または PDF/VT ジョブを処理します。